

児童青年期精神医学

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	6 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	7 人	

2 教員の異動状況

杉山 登志郎（特任教授）（H22.10.1～現職）
青山 美紗子（特任助教）（H25.4.1～H26.3.31 退職）
野村 和代（特任助教）（H23.4.1～H26.3.31 退職）
松本 かおり（特任助教）（H25.4.1～H26.3.31 退職）
原田 新（特任助教）（H25.4.1～H25.4.30 退職）
田中 善大（特任助教）（H25.4.1～H25.12.31 退職）
野村 昂樹（特任助教）（H25.6.16～H26.3.31 退職）
安田 小響（特任助教）（H26.1.1～H26.3.31 退職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	10 編	(6 編)
そのインパクトファクターの合計	6.24	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(3) 総説数 (うち邦文のもの)	7 編	(7 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松本 かおり, 伊藤 大幸, 小笠原 恵, 明飩 光宜, 染木 史緒, 谷 伊織, 行廣 隆次, 内山 登紀夫, 黒田 美保, 稲田 尚子, 岩永 竜一郎, 萩原 拓, 原 幸一, 井上 雅彦, 村上 隆, 中村 和彦, 杉山 登志郎, 内田 裕之, 市川 宏伸, 辻井 正次: 医療・福祉機関における発達障害に関するアセスメントツールの利用実態に関する調査, 精神医学, 55(11), 1093-1102, 2013. [IF 0]
インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Suzuki K, Sugihara G, Ouchi Y, Nakamura K, Futatsubashi M, Takebayashi K, Yoshihara Y, Omata K, Matsumoto K, Tsuchiya KJ, Iwata Y, Tsujii M, Sugiyama T, Mori N. Microglial activation in young adults with autism spectrum disorder. JAMA Psychiatry, 70(1):49-58, 2013. [IF 0]
2. Anitha A, Nakamura K, Thanseem I, Matsuzaki H, Miyachi T, Tsujii M, Iwata Y, Suzuki K, Sugiyama T, Mori N. Downregulation of the expression of mitochondrial electron transport complex genes in autism brains. Brain Pathol. 23(3):294-302, 2013. [IF 0]
3. Anitha A, Thanseem I, Nakamura K, Yamada K, Iwayama Y, Toyota T, Iwata Y, Suzuki K, Sugiyama T, Tsujii M, Yoshikawa T, Mori N. Protocadherin α (PCDHA) as a novel susceptibility gene for autism. J Psychiatry Neurosci. 38(3):192-8, 2013. [IF 6.242]
4. Kameno Y, Iwata K, Matsuzaki H, Miyachi T, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Iwata Y, Suzuki K, Nakamura K, Maekawa M, Tsujii M, Sugiyama T, Mori N. Serum levels of soluble platelet endothelial cell adhesion molecule-1 and vascular cell adhesion molecule-1 are decreased in subjects with autism spectrum disorder. Mol Autism. 17;4(1):19, 2013. [IF 0]
5. 伊藤 大幸, 平島 太郎, 萩原 拓, 岩永 竜一郎, 谷 伊織, 行廣 隆次, 内山 登紀夫, 小笠原 恵, 黒田 美保, 稲田 尚子, 原 幸一, 井上 雅彦, 村上 隆, 染木 史緒, 中村 和彦, 杉山 登志郎, 内田 裕之, 市川 宏伸, 辻井 正次: 日本版感覚プロフィールの標準化--信頼性および標準値の検討, 精神医学, 55(6): 537-548, 2013. [IF 0]
インパクトファクターの小計 [6.242]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 谷 伊織, 伊藤 大幸, 行廣 隆次, 平島 太郎, 安永 和央, 内山 登紀夫, 小笠原 恵, 黒田 美保,

- 稲田 尚子, 萩原 拓, 原 幸一, 岩永 竜一郎, 井上 雅彦, 村上 隆, 染木 史緒, 中村 和彦, 杉山 登志郎, 内田 裕之, 市川 宏伸, 田中 恭子, 辻井 正次 : 日本版Vineland-II適応行動尺度の開発 適応行動尺度の項目分析と年齢による推移, 精神医学, 55(10): 971-980, 2013. [IF 0]
2. 行廣 隆次, 伊藤 大幸, 谷 伊織, 平島 太郎, 安永 和央, 内山 登紀夫, 小笠原 恵, 黒田 美保, 稲田 尚子, 萩原 拓, 原 幸一, 岩永 竜一郎, 井上 雅彦, 村上 隆, 染木 史緒, 中村 和彦, 杉山 登志郎, 内田 裕之, 市川 宏伸, 田中 恭子, 辻井 正次: 日本版Vineland-II適応行動尺度の開発 適応行動尺度の測定精度の検討, 精神医学, 55(7): 627-635, 2013. [IF 0]
3. 平島 太郎, 伊藤 大幸, 岩永 竜一郎, 萩原 拓, 谷 伊織, 行廣 隆次, 松本 かおり, 内山 登紀夫, 小笠原 恵, 黒田 美保, 稲田 尚子, 原 幸一, 井上 雅彦, 村上 隆, 染木 史緒, 中村 和彦, 杉山 登志郎, 内田 裕之, 市川 宏伸, 辻井 正次 : 研究と報告 日本版乳幼児感覚プロフィールの標準化 信頼性および標準値の検討, 精神医学, 55(8): 785-795, 2013. [IF 0]
4. 伊藤 環, 杉山 登志郎, 海野 千畝子: 性的トラブルのある子どもに対する小児心療科病棟の安全な治療環境の提供について必要なこと, 小児の精神と神経, 53(1): 41-46, 2013. [IF 0]
- インパクトファクターの小計 [0]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 杉山 登志郎 : 【神経・精神疾患診療マニュアル】よくみられる精神疾患 自閉症スペクトラム障害, 日本医師会雑誌, 142(2): 321-322, 2013.
2. 杉山 登志郎 : 【自閉症治療・療育の最前線】自閉症児から自閉症者へ その人生と就労支援を考える 三〇代になった自閉症, そだちの科学, 21: 84-92, 2013.
3. 杉山 登志郎 : 発達障害と子ども虐待, 静岡県母性衛生学会誌, 3(1): 3-9, 2013.
4. 杉山 登志郎 : 発達障害から発達凸凹へ, CAMPUS HEALTH, 50(1): 95-103, 2013.
5. 杉山 登志郎 : 今, "発達"をどうとらえるか 発達障害はどこまで広がるのか, 発達, 34(134): 8-9, 2013.
6. 杉山 登志郎 : 【子どもと診察室や相談室で会う】児童青年期外来における初診の要点, 子どものこころと脳の発達, 4(2): 10-18, 2013.

インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 遠藤 ゆうな, 野村 昂樹, 秦 基子, 渡邊 往, 野村 和代, 杉山 登志郎 : 【自閉症スペクトラム障害の人々への誤解と偏見】(第II部)自閉症スペクトラム障害の人々と社会 療育・教育・支

援の現場 発達障害児への家族支援 ペアレントトレーニングを通して、精神療法, 39(3): 371-376, 2013.

インパクトファクターの小計 [0]

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 杉山登志郎：子ども虐待への新たなケア、学研、2013.
 2. 森則夫、杉山登志郎、岩田泰秀：臨床家のための DSM-5 虎の巻、日本評論社、2013.
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度
(1) 文部科学省科学研究費	4 件 (540 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	1 件 (200 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件 (0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 青山美紗子（代表者）学術研究助成基金助成金（若手研究B）「爪郭部毛細血管叢による自閉症早期診断法の確立」200万円（新規）
2. 野村和代（代表者）学術研究助成基金助成金（若手研究B）「虐待をともなう自閉症スペクトラム障害幼児と保護者への包括的支援プログラムの開発」230万円（継続）
3. 杉山登志郎（分担者）学術研究助成基金助成金（挑戦的萌芽研究）「発達障害とトラウマ性発達障害の鑑別およびトラウマへの治療効果判定に関する研究」20万円（新規）
4. 松本かおり（代表者）学術研究助成基金助成金（基盤研究C）「出生コホート研究に拠る母乳のアレルギー疾患発症抑制効果の検討」90万円（継続）

(2) 厚生労働科学研究費

1. 杉山登志郎（分担者）地域医療基盤開発推進研究事業「被災後の子どものこころの支援に関する研究」「原子力災害が子どもと家族に及ぼす影響およびその予防のための心理教育に関する研究」200 万円 (新規) 代表者 独立行政法人 国立成育医療研究センター 総長 五十嵐 隆

(3) 他政府機関による研究助成

- (4) 財団助成金
- (5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	3 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	1 件	2 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	7 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長

杉山登志郎：国際シンポジウム 災害と子どものメンタルヘルス、福島市、東京都、2013 年 2 月

- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
 - 1. 杉山登志郎：一般臨床における ADHD 児への対応と治療、第 116 回日本小児科学会学術集会教育セミナー、2013 年 4 月、広島市
 - 2. 杉山登志郎：大震災のトラウマへの対応、静岡県中部医学会学術講演会、2013 年 7 月、静岡市
 - 3. 杉山登志郎：自閉症スペクトラム障害、日本発達障害学会第 48 回研究大会、2013 年 8 月、東京都
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名

- 1. 杉山登志郎：第 12 回日本トラウマティック・ストレス学会、2013 年 5 月 11－12 日
- 2. 杉山登志郎：第 110 回日本小児精神神経学会学術大会、2013 年 11 月 8－9 日

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

杉山登志郎 日本小児精神神経学会常務理事

杉山登志郎 日本発達障害学会理事
 杉山登志郎 日本子どもの虐待防止学会代議員
 杉山登志郎 日本トラウマティック・ストレス学会理事
 杉山登志郎 日本乳幼児医学・心理学会理事
 杉山登志郎 日本自閉症スペクトラム学会評議員
 杉山登志郎 日本児童青年精神医学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
（１）国際共同研究	0 件
（２）国内共同研究	0 件
（３）学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道

1. 杉山登志郎：クローズアップ現代「トラウマからの解放」、NHK 総合テレビ、生出演、2013 年 12 月 11 日（水）19：30～19：56 放送